

2004 年度 委員会活動成果報告

(2005 年 3 月 1 日作成)

委員会名	構造設計システムの数理化小委員会	主 査 名：竹脇 出
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (応用力学運営委員会)	委員長名：西川孝夫 主 査 名：上谷宏二
設 置 期 間	2001 年 4 月 ~ 2005 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	構造設計実務の現状と関連基盤分野の研究の先端を展望し、性能規定型にも対応可能な新しい構造設計のあり方を提案する。(2001-2003)には、構造設計システムの数理化に関する各委員のこれまでの研究内容、実務設計内容について取り纏め、意見交換・検討を行う。(2004)には、活動成果を pdf ファイルに整理し、公表の準備を行う。2005 年度には WG として活動し、セミナー形式で成果公表を行う。	
委員構成 (委員名(所属))	竹脇 出(京大)、辻 聖晃(京大)、上谷宏二(京大)、内村 均((株)TRA)、大井謙一(神戸大)、大野 茂(大林組)、高田豊文(三重大)、堤 和敏(芝浦工大)、永野康行(竹中工務店)、中西啓二(清水建設)、藤谷義信(広島国際大)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2004 年度予算	130,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	2004 年 11 月 1 日：8 名出席(1 名資料提出) その他：メールによる通信
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>2004 年 11 月には、これまでの活動に関する発表および意見交換を行った。以下にその発表内容を示す。</p> <p>大井「Sensitivity on Load Carrying Capacity of Frames to Member Disappearance」 竹脇「地盤との連成効果を考慮した建築構造物の数理的構造設計手法に関する研究」 辻「耐震補強の数理化」 永野「非単調な変位応答スペクトル特性を有する複数の設計用入力地震動に対する建築構造物の性能指定設計」「非単調変位応答スペクトル適合設計用地震動を受ける建築骨組に対する二段階設計法を用いた最適設計」 高田「構造形態の創生と最適化小委員会における活動内容の紹介(橋梁)」 中西「パイルド・ラフト基礎の簡易設計法と数理的手法の適用について」 内村「入力地震動の設定における逆問題についての一考察」 堤「感性を考慮した構造形態創生システム」</p> <p>委員会 HP アドレス：</p>
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 小委員会の委員を中心に、数理的設計手法に関する調査および実際の設計への適用を行っていくことを当初の予定としていた。一部達成された点もあるが、関連小委員会でさらに活動を進めたい。2005 年度には、これまでの委員会活動を pdf ファイルとして取り纏め、セミナー形式の公表会を行う予定である。
その他評価すべき事項	